



# 3月の園だより

平成30年3月1日

冬の寒さもやわらいで、少しずつ春の兆しが見られるようになってきました。

この一年で様々な経験をし成長した子ども達、この成長を子ども達と一緒に振り返りながら、卒園や進級への期待を高めていきたいと思ひます。

保護者の皆様には、一年間たくさんのご理解とご協力を頂き本当にありがとうございました。

## 卒園式のお知らせ

日時： 3月18日(日) 10時~11時  
 場所： みなと保育園 お遊戯室  
 出席者： 月・雪組園児、月組保護者  
 希望に胸をふくらませた月組の子ども達が卒園します。これからも、心身ともに大きく成長されることを願いつつ、在園児と共に見送りたいと思ひます。

## お知らせ

3月31日(土)は新年度準備の為、ご家庭で保育が可能な方はご協力お願い致します。又、3月31日(土)の延長保育は行いません。18時までは通常保育となります。

## お願い

年度末の為、諸費等は9日(金)までに必ず納入をお願いします。年長児の延長保育料(3/1~3/14)は3月16日(金)に納入お願いします。3/15以降は利用ごとに納入お願いします。できるだけおつりのないようにして下さい。

## 来年度の予定

- \* 4月 9日(月) 進級式
- \* 4月 21日(土) 保育参観・クラス懇談
- \* 5月 19日(土) 歓迎遠足

## SAKURA COLUMN

### ♪幼保連携型認定こども園♪

どうして「幼保連携型認定こども園」に移行するの?というご質問をよく受けます。一言で言うと「保育の質の向上のため」です。保育とは養護と教育を環境を通して一体的に行うことです。しかし、年々、保育所保育がサービス化してきているように感じます。保育は託児ではありません。保育は子どもの健全な育ちを支えるものです。幼保連携型認定こども園は保育所と幼稚園のそれぞれの基準の高い方に合わせた教育・保育施設です。当園は幼保連携型認定こども園に移行し、保育の質の更なる向上をめざします。

避難訓練 2月27日(火) 火災時の避難訓練を行いました。

## ご意見・ご要望

保護者の方から受け入れ時の保育士の対応について、ご意見を頂きました。職員会議にて再確認し、保護者の気持ちに気付くことができる対応や考え方を周知徹底しました。

ご意見ありがとうございました。

## 【3月の予定】

月	火	水	木	金	土
			1 絵画教室(月)	2 ひなまつり会 誕生会	3
5 スイミング(月希望者) 体育教室(月・雪)	6	7 英会話教室(月)	8 絵画教室(月)	9	10
12 スイミング (月希望者)	13 卒園式総練習 (月・雪)	14 体育教室(月・雪)	15 卒園式総練習 (月・雪)	16	17
19	20	21	22 交通安全指導	23	24 保護者説明会
26	27	28 英会話教室(雪)	29 絵画教室(雪)	30	31 延長保育は ありません

# 折り合いとは(調整力)

自分の思い通りにならない時、  
自分の思いを素直に出すことが出来ない時、  
友だちとの気持ちのすれ違いを感じた時 など

自分はどうしたいのか、心の中で葛藤を繰り返し調整して自分を確立していくことです。

葛藤の中では、自分と向き合うことのできる  
自分はこれでいいのだと思える  
自分を認めることのできる  
自ら向かっていこうとする

自立心  
自己肯定感  
自信  
意欲

が育まれます

**葛藤を乗り越えるためには、大人との信頼関係や子ども同士の関わりの広がり大切です！**

☆保育園での子どもたちの折り合う姿と関わり方の紹介☆

たんぽぽ1歳児。お人形2体を使いたい三人の女の子。2人の子はサッと人形を取ったが、1人取り損なったKちゃん。2人を見て、納得いかない顔をしていたが、近くに転がっていたキュービーをサッと取って抱きかかえ保育士と目が合うと、保育士は何も言わなかったが、コクンとうなずいてキュービーで遊び始めた。Kちゃんなりに折り合いをつけて次の遊びに移ったと感じた

## ☆見守り

表情やようすから思いを読み取り  
受け止める援助

すみれ組2歳児。Y君が沢山の玩具を使っていた。YちゃんがY君の使っていた玩具が欲しくて貸してもらおうとするが、「ダメ」と言われ、泣いて保育士に訴えてくる。一緒に「貸して」と言うが、Y君は首を振る。Yちゃんに「後で借りよう」「あ、これで〇が作れるよ」と残りの玩具で何か作り出すとYちゃんは泣き止み、一緒に作り遊び始めた。

## ☆つなぐ

思いを言葉で伝えたり、知ったりできるように代弁しつつ援助

空クラス。トラブルになって泣いている友だちがいるのを見て、それを見ていた1人の子が、「ここに座ってお話してー。」と言って、トラブルになっている2人の子の手をひいて、2人を椅子の所に連れていって、話すきっかけを与えてくれた。その後、2人で話をし、落ち着いて仲直りをしまた遊び始めていた。

## ☆共に向き合う

自分を振り返り、自分と向き合う幼児を支える援助



その時、側に信頼できる人、必ず助けてくれるという安心感が持てる人が必要です。  
まずは、子どもが求めた時、「ちょっと待って。」「あとで。」ではなく、話を十分に聞いてあげましょう！

**☆子どもは集団生活の中で葛藤を繰り返し、折り合いをつける力を学びます。**